

8. 麻疹流行対策

はじめに

麻疹ワクチンは、一回接種のみでは10年ほどで抗体価が低下し、麻疹罹患の可能性が出てくる。2007年度の麻疹流行は、麻疹に罹患せずワクチン接種も受けていないか一回接種にとどまって十分な抗体価を持たない年齢層が大学に入学してきた状況で起こったものである。このため2006年度から小学校入学前に2回目の接種を行なうように法改正され、2008年3月からは中学1年生に3期、高校3年生に4期接種が制度化された。

1) 教育実習を予定する2年生の抗体検査

麻疹ワクチン4期接種が制度化された直後に入学した2年生のうち、教育実習を受ける予定がある者に対して、2009年10月に麻疹抗体検査を実施した。

10月5日・5日に抗体検査のための採血を実施。336名中284名(84.5%)が受診した。

ELISA法によるIg-G測定 EIA値2.0未満を(-), 2.0以上4.0未満を(±), 4.0以上を(+)とするが、6.0未満では感染の危険性があるとされている。

284名中EIA値

6.0以上(+): 218名(76.8%)

4.0以上6.0未満(+): 42名(14.8%)

2.0以上4.0未満(±): 17名(6.0%)

2.0未満(-): 7名(2.5%)

およそ23%が十分な抗体を持っていないと判断された。

上記判定に区分した結果表を配布し、EIA値6.0未満の者には実習前に医療機関でのワクチン接種を受けることを勧めた。接種が確認された者は66名中57名であった。

採血と同時に麻疹の罹患及びワクチン接種の状況について確認した。麻疹に罹患したことがあると答えた29名中EIA値6.0未満の者は2名(6.9%)であったが、麻疹に罹患したことが無いと答えた237名中EIA値6.0未満の者は61名(25.7%)に及んだ。

また、ワクチン接種を2回受けたと答えた学生38名中EIA値6.0未満の者は5名(13.2%)、ワクチン接種を1回のみ受けたと答えた学生212名中EIA値6.0未満の者は56名(26.4%)であり、ワクチン接種をしていないと答えた学生19名中EIA値6.0未満の者は3名(15.8%)であった。ただし、ワクチン接種をしていないと答えた学生19名中12名が麻疹既往者であった。

ワクチン2回接種を受けた者は1回接種の者に比して十分な抗体を持たないものの割合が半減していた。ただし、麻疹既往者には及ばなかったという印象はあるものの、4期接種による抗体獲得の効果はあったものと判断できる。

2) 新入生への対応

2008年3月から高校3年生を対象に行われている麻疹ワクチンの4期接種は、必ずしも実施率が高くないため、未だ数年間は抗体検査とその結果によるワクチン接種が必要であると思われる。具体的な接種計画の基礎資料を得ることを目的に、新入生に対して麻疹への罹患状況やワクチン接種状況を調査した。

入学生に対して入学式前に郵送する書類の中に麻疹等の既往とワクチン接種状況調査票を同封し、入学後に回収した。回収数は1,165名(男691名、女474名)であった。

麻疹罹患率は10.6%(男11.0%、女9.9%)。ただし罹患不明が5.8%(男6.1%、女5.3%)あった。

麻疹ワクチンの接種率は94.5%(男93.5%、女96.6%)。ただし接種不明が3.3%(男4.3%、女1.7%)であり、未接種者は2.2%(男2.6%、女1.7%)であった。

ワクチン接種者で、接種年月日を1つだけ記載している例を1回接種、2つ記入している例を2回接種とすると、1回接種は234例(20.1%)、2回接種は876例(75.2%)であり、昨年度の調査結果〔1回接種が917例(92.2%)、2回接種が78例(7.8%)〕とは全く異なる状況であった。

結論

2年次生を対象にした抗体検査の結果と、新入生を対象にしたワクチン接種状況の調査結果を受けて、今後は2回接種を受けていない者に対して、教育実習前の抗体検査と必要に応じたワクチン接種を実施したい。